

## 「子宮体癌における術前子宮内膜組織診を用いたリンパ節転移予測」 に関する研究

### 1、研究の対象

当院において1988年2月より2013年8月の間に当院で術前に子宮内膜組織診を実施し、子宮体癌の手術を施行した子宮体癌患者さんが対象となります。

### 2、研究目的・方法

子宮体癌は通常手術を行う前に子宮内膜の組織診断を行い、癌細胞の検出をすることで術前に癌の診断をつけることが可能です。また子宮体癌はリンパ節転移を引き起こしやすい癌であり、手術の際にリンパ節切除を行うこと少なくありません。しかしながらリンパ節切除により、リンパ浮腫といった足のむくみを引き起こす術後合併症もあり、早期子宮体癌においては縮小手術も考慮されます。しかし、リンパ節転移が認められる場合は進行子宮体癌であり、術前にリンパ節転移を診断できるかどうかは重要な問題となります。そこで今回は術前の子宮内膜組織診に用いられた検体及び手術検体を用いて何らかの病理学的因子等（顕微鏡検査による項目等）がリンパ節転移の有無と相関するかどうかを調べることを目的としています。研究期間は平成33年12月31日までを予定しております。

### 3、研究に用いる試料・情報の種類

研究に用いる試料は過去に当院で採取された術前の内膜組織と、手術で取得された腫瘍検体であり、情報は通常診療録に記載される情報になります。この研究のために改めて試料・情報を取得することや、侵襲を加えることはありません。取得する情報の内容としては以下の内容になります。

年齢、FIGO病期やTNM分類(病気のひろがりや転移の有無のこと、またリンパ節転移の有無)、術前画像診断等による術前の臨床進行期(予想される病気のひろがり)、治療歴、手術内容、病理学的因子、再発の有無、初回治療から再発までの期間、化学療法の奏効率(効果の有無のこと)、再発治療内容、最終生存確認日(または死亡日)等になります。

また試料については既に摘出された検体を用いて、術前の内膜組織スライドや手術時に作成された病理スライド、また未染スライドへの免疫染色(特殊染色による蛋白等の同定)の追加を行い検討をします。

### 4、お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

防衛医科大学校 産科婦人科学講座 宮本守員

〒359-8513 埼玉県所沢市並木3-2

電話：04-2995-1511（内線2363）

FAX：04-2996-5213

研究責任者：

防衛医科大学校病院 産科婦人科学講座 教授

古谷 健一